

## もめごとから始まる育ちの場

前川 良太

今年度で法人は設立 20 周年を迎え、先日記念事業の一環で認可後 20 年間の卒園保護者と子どもの座談会を行いました。保護者へは「もめごと」をテーマに、この人に語ってもらいたいという人を各年代の 5 歳児の担任が推薦して招待しました。もめた人を呼ぼうなんてどうもアトムつばさっばいですね。20 年となるとかなり世代も幅広く、参加者同士も顔見知りではない人の集まりです。だけど同じ園を卒園したというだけの共通点で集まり、見ず知らずの人たち同士である頃のもめごと赤裸々に語り合うような場になりました。それには同じようにアトムつばさの懇談会や職員、保護者同士でのやり取りを体験してきた安心感が根底にあったからでしょうか。昨年度は、これまで語り合いが足りていなかったと振り返りました。できていないこと足りないことばかりに視点がいくけれど、この 20 年の歩みを振り返ってみるとそうでないこともたくさんあることに改めて気づきました。つばさも開園して 12 年目。その間にしっかり地域に根を下ろしていることを肌で感じました。

また 4 月は初回のクラス懇談がたくさんあったので、池本副園長と手分けして全クラスに参加しました。第 1 回ということもあり、どのクラスも自己紹介をメインテーマに設定して懇談会が行われました。まだまだ担任も保護者も 4 月の固さが残る懇談会でした。共有と共感得意な職員たちです。楽しいこと、面白いこと、その子らしい姿をキャッチして一緒に笑いあい、考えあうことはとっても上手です。けれどももう一步突っ込んだやり取りにつなげるにはまだまだ工夫も必要です。これから日々をともにしながら、心から仲間と思えるようになっていけるといいなと願っています。

保育園とは生活の場です。子どもにとってはもちろんのこと、それは保護者にとっても同じです。先に紹介した座談会の中でも「保育園がこんなにも自分に用事のある場所だと思わなかった。」と話す人もいました。本当にその通りで、ここは人が人として「育つ」場であり、「育つ」はなにも子どものことだけを指しているのではないのです。

感じ方の違う人間同士の集まりですから、もめごとが起きるのは自然なことです。深く知りもしないうちから自分の物差しで測るような上っ面の関係では、それ以上関係が深まることはありません。それどころか、自分と違う考えは認め合わない殺伐とした関係になってしまいます。そんなままでは、もめた相手に「また会いたい、あの人を座談会に呼ぼう」なんて思いっこありません。もめごとは子どものけんかと同じでお互いを知り合うチャンスです。もめながら、お互いにどう考えるのかと本当の意味の自己紹介を何度も何度も繰り返すのです。

昨年度も、卒園準備でなかなかうまくかみ合わないグループに私も首を突っ込んでいきました。原因を紐解きながら、伝え合うことの大切さを話していた時に「懇談でもっとそんな話をしたらいいのに。」と話すお母さんがいました。その時私は「大事なことに気が付いてくれてありがとう。だけどそういう話ができなかったのはお母さんの責任でもあるんやで。」そしてこう続けました。

「懇談会は共同学習の場。作り手と受け手という関係では一方的なやり取りにしかならない。担任は母の願うような懇談会を狙ってチャレンジしてきたけれど、保護者にその気がなければ懇談会は深まっていかない。参加者ではなく立場を越えて、保護者もともにその場を作る担い手であるという自覚をしてほしい。」

はじめは面食らったような表情のお母さんでしたが、そのあと「わかった。来年はそうする。」と弟のクラス懇談会では“ともに”の姿勢でいてくれることを伝えてくれました。きっと今年度からはその心づもりでいてくれると思います。あえて繰り返しますが、保育園は生活の場です。懇談会は共同学習の場です。立場を越えてやり取りし、時にぶつかり、時に指摘しあうことも必要です。だからこそ懇談会と一緒に創っていく仲間であってほしいなと思います。そのためにまず、いろいろ理由はあるでしょうが、開始時間に遅れないようにすることから始めませんか？ お互いの側に立った誠実なやり取りを重ね合う場を、一緒に創っていきましょう。

※3 歳児担任の岡本浩子は 5 月からフリー担当(主に 2, 3 歳クラス)となります。  
状況に応じて年度の途中で配置が変更となることがあります。ご理解ください。